©河北新報社 2009

NIE特集

Newspaper In Education

どきどき
小学生
ホタテちゃん
すずりちゃん

雄勝小

学校名　石巻市立雄勝小学校　　校　長　土井　正弘
所在地　石巻市雄勝町雄勝小渕38　　児　童　111人
電　話　0225（57）3004

町の産業を調べてみた！

国内トップ「雄勝硯」

ホタテの養殖も盛ん

知り隊

私たちの住んでいる町・雄勝は、玄昌石を採掘することができます。玄昌石を素材とした「雄勝硯」は全国の硯生産高の九割を占め、また、薄板状の「天然スレート」は、国内のいろいろな建物に使用されています。さらに、リアス式海岸の雄勝湾では水産業が盛んで、特にホタテの養殖は総合的な学習で私たちも体験します。私たちは、地域の木村満さんと伊藤浩光さんに雄勝町の産業について伺うことにしました。

雄勝湾に稚貝を採集するネットを投入する伊藤浩光さん（手前）

埋蔵量は無尽蔵と言われている玄昌石。二〜三億年前の地層から採れる石は、石肌がとてもきれいです。

雄勝の天然スレートは高級で、雨や風に強く百年はもつと言われています。そのため、東京駅や旧北海道庁、旧山形県庁などに使われました。雄勝の町でも天然スレート葺きの家は少なくなりましたが、また見ることができます。

伝統工芸品の指定を受けている雄勝硯の歴史は古く、約六〇〇年前の室町時代にさかのぼるそうです。今でも昔ながらの製法で、硯職人のみなさんが彫りあげています。また、今では玄昌石を使って食器や花器も作られ、とても人気があるそうです。

次に、どうして雄勝湾はホタテの養殖に適しているのか伺いました。それはいくつかの条件が重なっているからなのだそうです。まず、降水量。太平洋からくる湿った風が硯上山にぶつかり雨が降ります。雄勝の降水量は宮城県内でも多く、その雨が山々にしみ込み、大原川に流れ、そして海に注ぎます。次に山に囲まれた地形。雨が地中にしみていく中で、栄養分が含まれていきます。この栄養が、ホタテの餌であるプランクトンを育てるそうです。そして、穏やかな湾。大きい波があると、吊してあるホタテが落ちてしまうからです。寒流と暖流が入り交じり、よい漁場になっています。

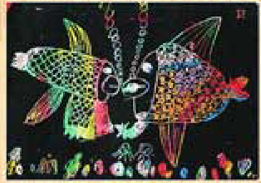
◇　◇

自然の恵みと地域の人々の知恵によって、雄勝の産業が発展してきたということが、新聞作りを通してよく分かりました。

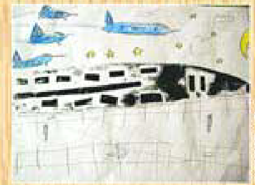
文・木村恵理、鈴木杏奈、三浦優真（卒業生）

玄昌石の説明をする木村満さん（右）

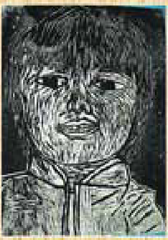
うきうきキャンバス



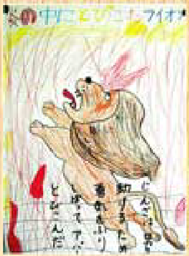
「虹色の魚」を読んで
2年・千葉亜志彦



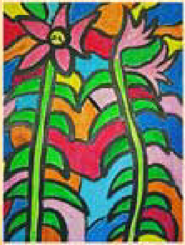
ブルーインパルスと新幹線
3年・鈴木悠介



私の顔
5年・鈴木菜々


炎の中にとびこむライオン

炎の中にとびこむライオン
4年・佐々木誠



いいかおりがするユリの花
卒業生・高橋明香

教え隊

高知のポンカン

感謝の手紙送り交流

給食のときに、みんなで食べたポンカン

雄勝小には、毎年高知県からポンカンが送られてきます。全校児童に2、3個ずつ配られて、一つは給食の時に、もう一つはおうちに持ち帰ります。甘くておいしいポンカンです。毎年送ってくださるのが、旧雄勝町水浜出身の伊藤健三さん（85歳）。今は、高知県東洋町で、ポンカンを栽培されています。収穫の時期になると、わざわざ出身地の雄勝まで送ってくださいます。そのお礼に私たちは、感謝の手紙とおいしく食べている写真を高知県に送っています。

文・今野郁姫（卒業生）

編集後記

この新聞を書くことになった時に本当に仕上がるのかどうか心配でした。ですが、いざ書いてみると、不安もどこかへ飛んで、いつの間にか新聞を書くことが楽しくなってきました。

ホタテや玄昌石の資料を集めたり、情報をまとめたりすることはとても大変でした。この新聞を書いてみて、総合的な学習で学んだことをもとにして、自分たちの住んでいる町のことをより詳しく学び、雄勝のよさをあらためて知ることができました。

読者のみなさんも、ぜひ、雄勝にいらしてください。ありがとうございました。

△編集委員▽木村恵理、鈴木杏奈、三浦優真、今野郁姫、佐藤清香、桜井真美（卒業生）
題字デザイン　鈴木杏奈（卒業生）
△指導教諭▽藤坂雄一、伊藤勝彦

言い隊

■ 生活見直し環境守る ■

みなさんは、EMを知っていますか。世の中に数ある微生物の中でも有用な微生物を集めたものです。普段使う漂白剤や合成洗剤でもきれいにはなるのですが、それが排水として川や海に流れると環境汚染につながり、生物に悪影響を及ぼします。同じく、汚れをきれいにする力をもつEMを使うと、むしろ川に生き物が増えることが発表されています。

六年生はEMについて調べながら、環境保護について考えました。いろいろなつながりの中で私たちも生きています。「自分さえ良ければ…」という考え方から、「みんなが幸せになるために」という考え方に変えて、生活を見直していかなくてはいけないと思います。

（卒業生・佐藤清香）

■ 思い広げたポスター ■

児童会で「階段の一段抜かしはダメ」というポスターを中央階段に貼ってから、数日たったある日、二年生と三年生が中央階段で私とすれ違いました。ちょうど二年生が一段ぬかしをしていたので注意しようと思ったら三年生が、「二段抜かしはダメだよ。あそこのポスターにもかいてあるじゃん」と。二年生もすぐにやめました。私はその光景を見て「児童会でポスターをつくってよかったな」と思いました。

私もポスターを製作した一人です。パソコンを使ってデザインを考えて、放課後遅くまで学校に残って貼ったポスター。私たちの思いが、ポスターによって全校に広がっているんだなと感じました。

（卒業生・桜井真美）

毎月第２・４火曜日発行　これまでの掲載校の紙面を河北新報のホームページ（KOLNET）で見ることができます。